千葉県八千代市

勝田大作遺跡　g地点

－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

令和４年度

山下興産株式会社
八千代市教育委員会

凡　　例

1．本書は，八千代市教育委員会が令和４年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。報告書作成作業は令和４年度事業として行った。

2．本書に収録した発掘調査は，宅地造成に伴うもので，事業者である山下興産株式会社の委託を受けて実施した。

3．遺跡名は，勝田大作遺跡，所在地は千葉県八千代市勝田637番１，640番である。

4．調査及び整理は，以下のとおり実施した。

確認調査　勝田大作遺跡ｇ地点として実施した。

期間　令和３年12月６日～令和３年12月23日　面積　340㎡/3,956.64㎡

本 調 査　期間　令和４年４月21日～令和４年５月20日　面積　264㎡

本 整 理　期間　令和４年６月１日～令和５年３月31日

5．遺構No.は，数字と記号（アルファベット）の組み合わせで標記した。記号は以下のとおりである。

竪穴建物跡　D　　土坑・柱穴　P　　かく乱　K

6．遺構・遺物の縮尺は，原則として下記のとおりである。

［遺構］竪穴建物跡　1/60　　カマド　1/30

［遺物］土器・土製品　1/3　　鉄製品　1/2

7．遺物実測図中の断面黒塗りは須恵器を表し，中軸線の両脇の空きは，復元実測を表す。

8．参考文献は第３章末にある。

9．出土した遺物のほか，写真・図版等の調査資料は，八千代市教育委員会が保管している。

10．本書の図版作成は，菊池健一，宮下聡史が行い，トレースを伊藤衣莉加，大友梢が行い，執筆・編集を宮下が行った。

八千代市の位置

勝田大作遺跡の位置

（国土地理院発行５万分の１地形図に加筆・編集）

目　　次

凡例
目次
挿図目次
写真図版目次
第１章　調査経過及び概要
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の概要……1
　第３節　勝田大作遺跡の概要……1
第２章　検出された遺構と遺物
　第１節　奈良・平安時代……5
第３章　成果と課題……9
写真図版……10
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　勝田大作遺跡調査地点……2
第２図　勝田大作遺跡周辺の遺跡……3
第３図　大正時代の勝田大作遺跡周辺の遺跡……3
第４図　勝田大作遺跡ｇ地点調査範囲図……4
第５図　勝田大作遺跡ｇ地点遺構配置図……4
第６図　０１Ｄ・０２Ｄ出土遺物（１）……5
第７図　０１Ｄ・０２Ｄ遺構実測図……6
第８図　０１Ｄ・０２Ｄ出土遺物（２）……7
第９図　０１Ｄ・０２Ｄ出土遺物（３）……8

写 真 図 版 目 次

図版１　遺構１（調査前全景・調査区全景・０１Ｄ・０２Ｄ全景・土層断面・０２Ｄ全景・０１Ｄ全景・カマド）……10
図版２　遺構２（０２Ｄカマド遺物出土状況・出土遺物）……11

第１章　調査経過及び概要

第１節　調査に至る経緯

令和３年６月15日付けで，山下興産株式会社　代表取締役　田中健一（以下事業者）から勝田字大作637番１の宅地造成に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は，周知の遺跡である勝田大作遺跡の範囲内であるため，八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は，周知の埋蔵文化財包蔵地であることから，文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要」であることと，「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し，合計3956.64㎡について取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は工事を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年９月24日付で事業者から土木工事の届が提出され，市教委は12月６日に確認調査を開始した。

確認調査　確認調査は，令和３年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて行った。その結果，縄文時代の陥穴１基と奈良平安時代の竪穴建物跡３棟，掘立柱建物跡１棟，土坑１基を検出した。

本調査　確認調査の結果から768㎡について協議範囲とし，本調査実施に向けて協議を重ねた。協議の結果786㎡の内522㎡を現状保存とし，残り264㎡を記録保存の範囲とした。市教委は令和４年３月25日付で調査の見積りを事業者に提示し，事業者からも同年４月８日付で八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出された。市は同年４月12日付でこれを受託した。令和４年４月14日付で市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。同年４月21日に市教委が本調査を開始した。工期の都合上，本調査対象範囲以外については工事が進む中での調査となった。

第２節　調査の概要

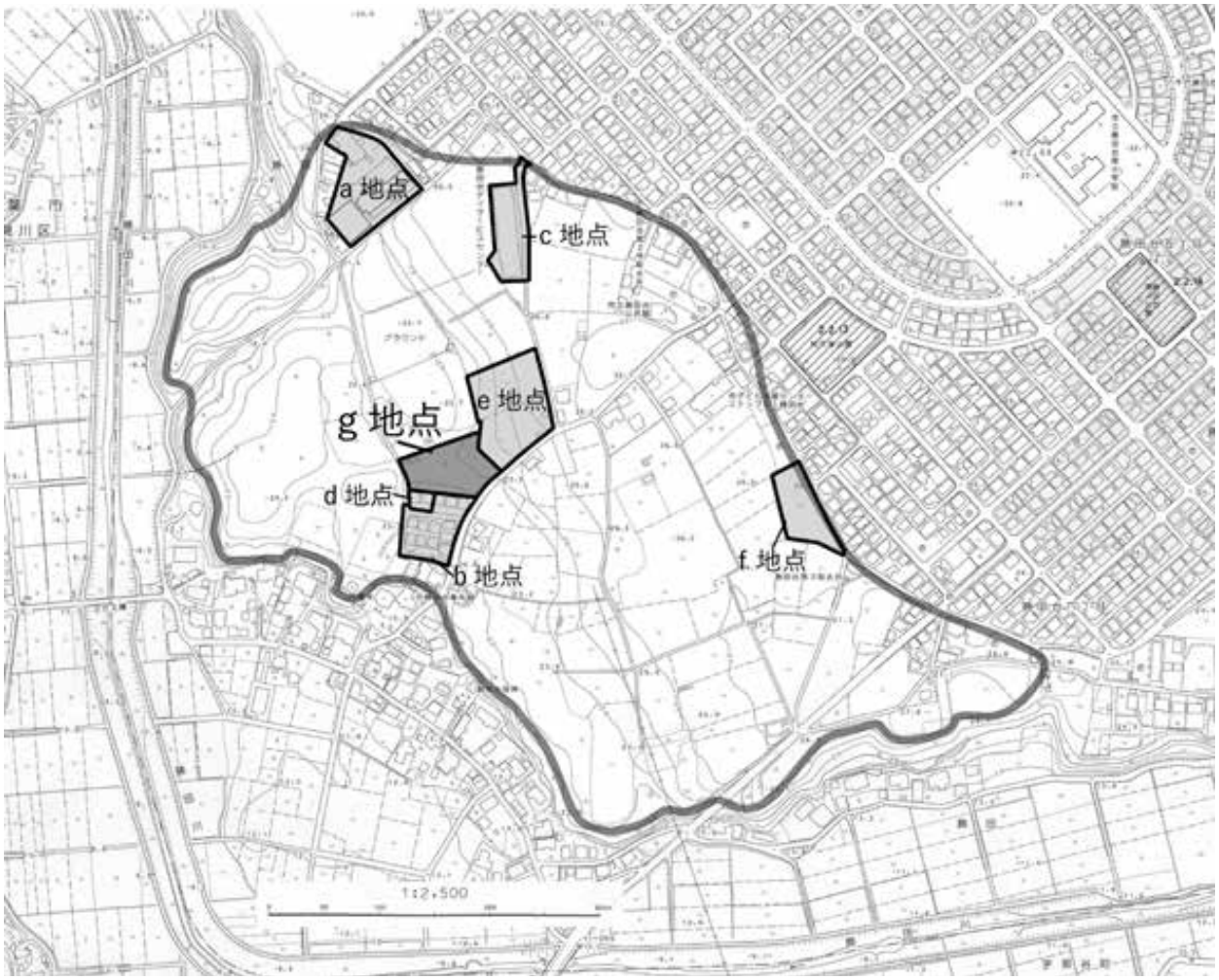
本調査は，遺構を検出した周囲264㎡を対象として行った。表土については重機により掘削し，適宜写真撮影と図面作成，トータルステーションによって記録をとりながら完掘を目指した。

調査経過は，４月21日機材搬入，調査前状況写真撮影を行った。同日から25日にかけて重機による表土掘削。遺構確定後４月26日より竪穴建物跡等の遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成等を並行して行い，随時写真撮影等により記録を行った。個別の遺構調査終了後に全体写真撮影を行い，５月20日機材を撤収し，調査を終了した。

第３節　勝田大作遺跡の概要

遺跡の立地　勝田大作遺跡は，市域の南部、勝田地区にある。南と西を勝田川が蛇行して流れる標高23mから26mの河岸段丘及び台地上に位置する。調査地点は遺跡のほぼ中央に位置し，勝田川を西に臨む河岸段丘上，標高24m前後に立地する。

これまでの調査　７地点の調査が八千代市教育委員会により行われ，昭和60年のａ地点の本調査では、古墳時代の竪穴建物跡９棟と土坑10基，奈良・平安時代の竪穴建物跡２棟に中近世の溝跡６条が調査され，この他に古墳時代の竪穴建物跡７棟と土坑１基が現状保存されている。令和元年に調査が行われたｅ地点では縄文時代の陥穴１基が調査されている。ｆ地点の調査では遺構は検出されなかった。



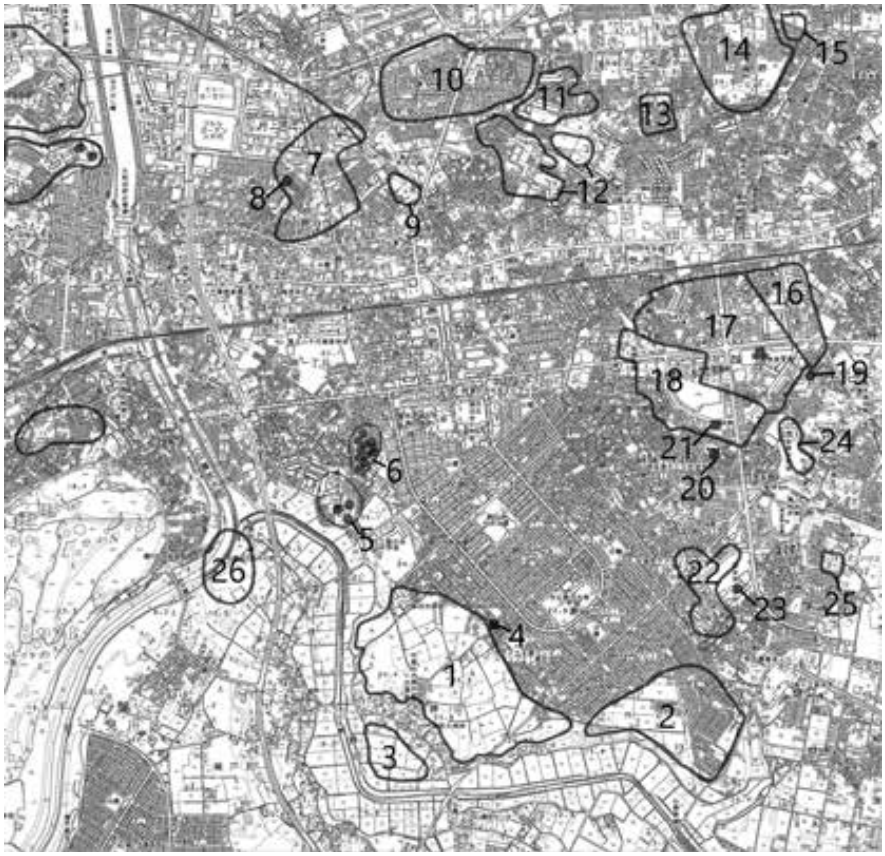
第１図　勝田大作遺跡調査地点

周辺の遺跡

勝田大作遺跡と同一台地上東側には新東原遺跡が所在している。宅地造成等を原因に調査が行われ，縄文時代の土坑群を始め旧石器時代の石器集中地点や奈良･平安時代の方形周溝状遺構等が見つかっている。南西の勝田川に面する低台地上には勝田前畑遺跡が所在している。北側には仲山古墳群が所在し，さらにその北には勝田台群集塚が所在している。遺跡北東側の台地上は昭和40年代に開発された勝田台団地が広がり，この区域内では現在のところ遺跡等は確認されていない。

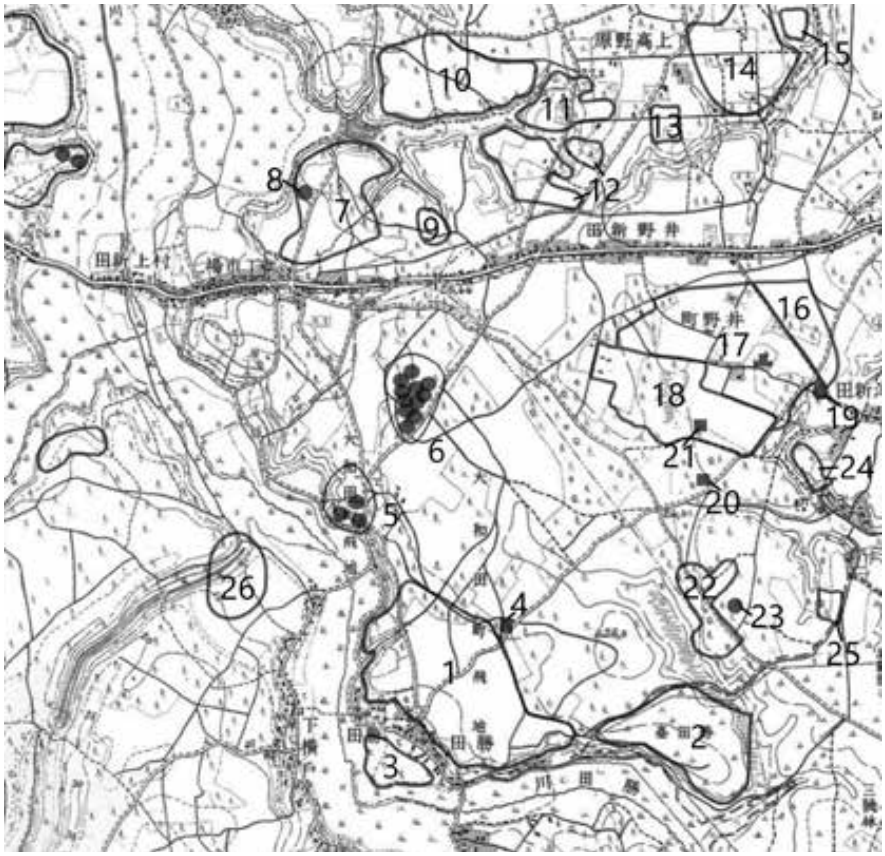
勝田台団地の東，佐倉市側には区画整理事業により調査された志津御塚山遺跡や井野町大林遺跡，西野遺跡，芋窪遺跡，大堀遺跡が所在し，旧石器時代の石器集中地点が多数調査されるとともに，縄文時代の陥穴や平安時代の竪穴建物跡，近世の塚等も調査されている。また近世の井野町の佐倉藩士族屋敷跡等もこの地域には所在している。

勝田川の対岸にあたる千葉市側には，現在の新川との合流地点付近に所在する新山遺跡を始め，図の範囲外になるが南岸にも縄文時代，古墳時代等の遺跡が複数所在している。



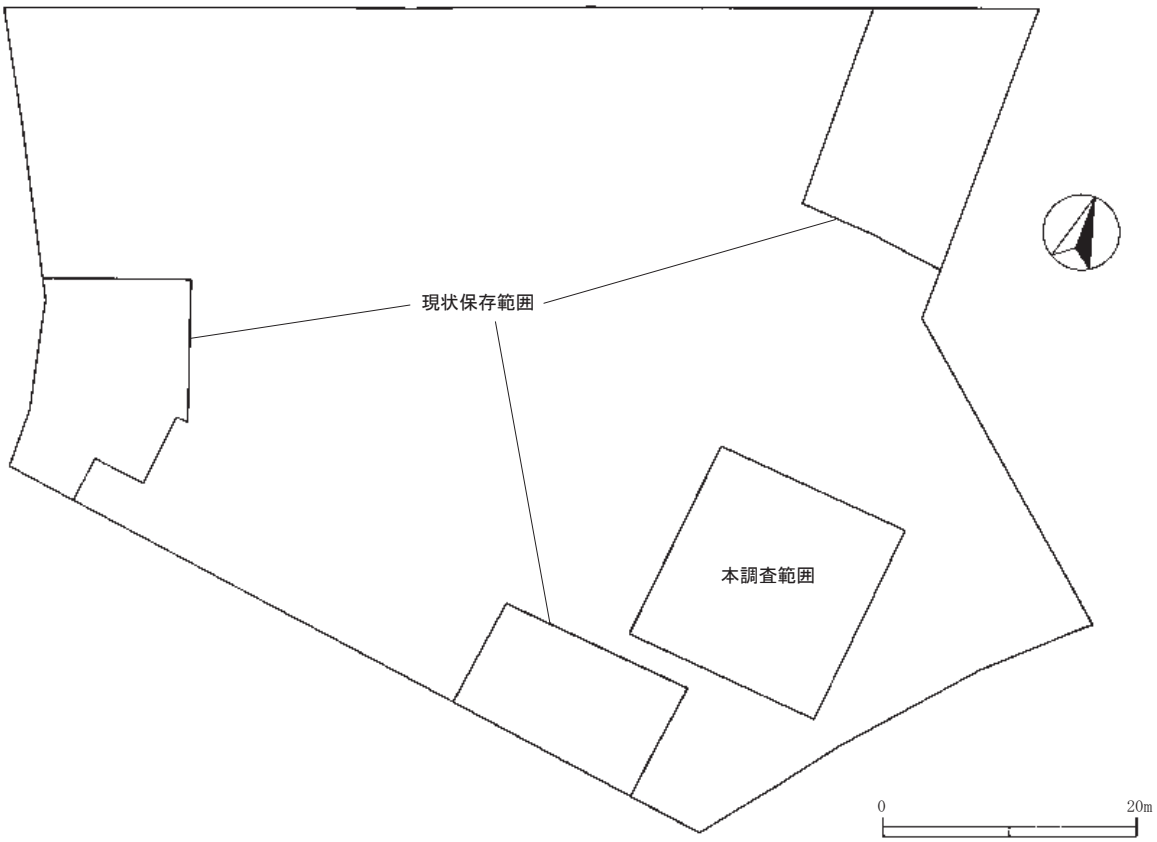
1　勝田大作遺跡
2　新東原遺跡
3　勝田前畑遺跡
4　勝田三山塚
5　仲山古墳群
6　勝田群集塚
7　沖塚遺跡
8　沖塚古墳
9　台北側遺跡
10　黒沢台遺跡
11　二重堀遺跡
12　新林遺跡
13　稲荷前遺跡
14　上谷津台南遺跡
15　上谷津遺跡
16　上志津御塚山遺跡
17　井野町の佐倉藩士族屋敷跡
18　井野町大林遺跡
19　井野町の庚申塚
20　上志津大塚１号墳
21　上志津大塚２号墳
22　上志津大堀遺跡
23　上志津大堀１号塚
24　上志津西野遺跡
25　上志津芋窪遺跡
26　新山遺跡

第２図　勝田大作遺跡周辺の遺跡

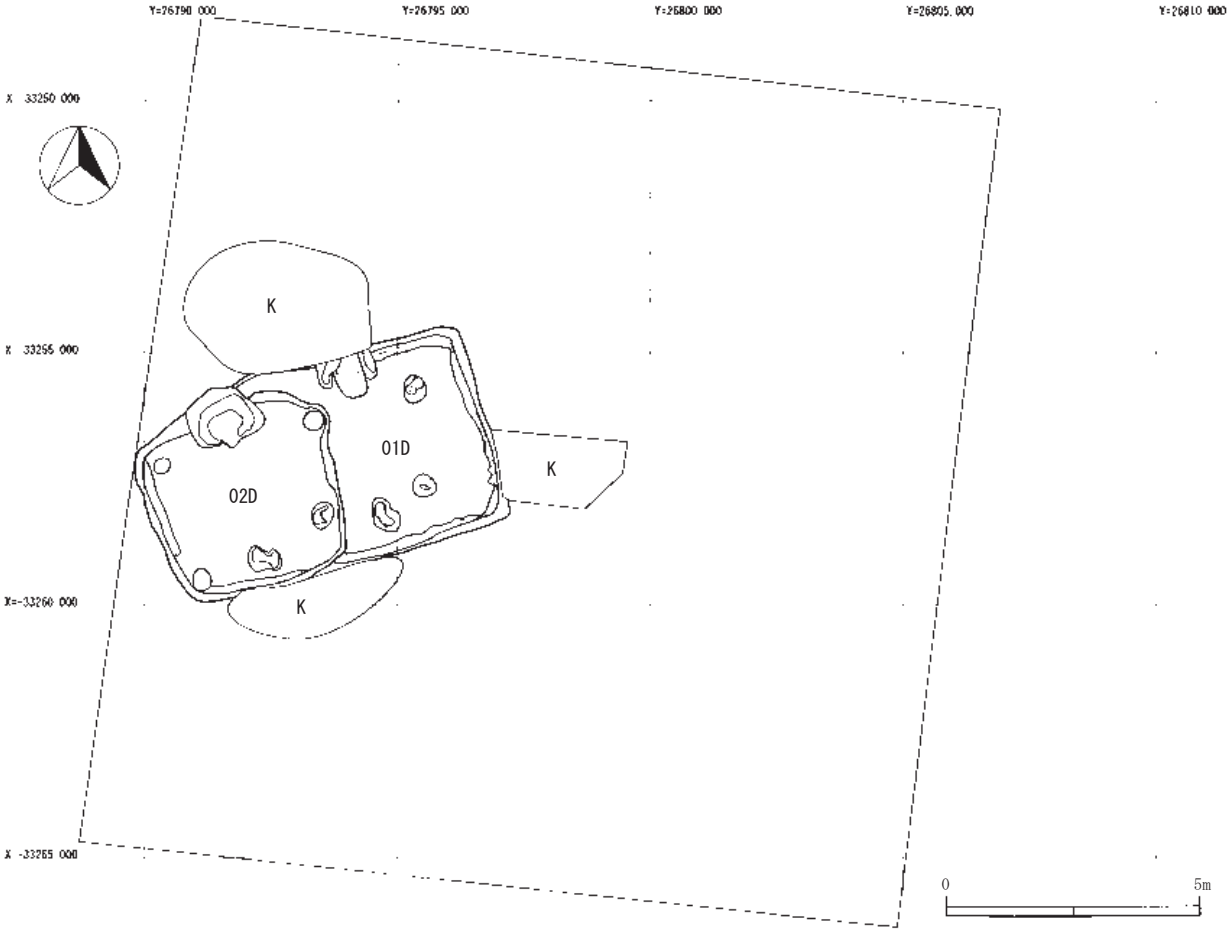


1　勝田大作遺跡
2　新東原遺跡
3　勝田前畑遺跡
4　勝田三山塚
5　仲山古墳群
6　勝田群集塚
7　沖塚遺跡
8　沖塚古墳
9　台北側遺跡
10　黒沢台遺跡
11　二重堀遺跡
12　新林遺跡
13　稲荷前遺跡
14　上谷津台南遺跡
15　上谷津遺跡
16　上志津御塚山遺跡
17　井野町の佐倉藩士族屋敷跡
18　井野町大林遺跡
19　井野町の庚申塚
20　上志津大塚１号墳
21　上志津大塚２号墳
22　上志津大堀遺跡
23　上志津大堀１号塚
24　上志津西野遺跡
25　上志津芋窪遺跡
26　新山遺跡

第３図　大正時代の勝田大作遺跡周辺の遺跡
（国土地理院発行２万５千分の１地形図を編集）



第４図　勝田大作遺跡ｇ地点調査範囲図



第５図　勝田大作遺跡ｇ地点遺構配置図

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　奈良・平安時代

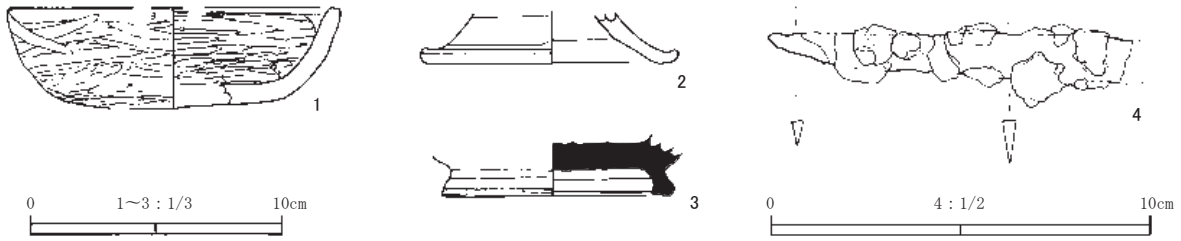
今回の調査において，奈良・平安時代の竪穴建物跡２棟を検出した。２棟は重複関係にあり，土層の堆積状況から０１Ｄに伴うものか０２Ｄに伴う遺物か判別しがたいため，遺物についてはまとめて掲載した。また，少数ながらも灰釉陶器や緑釉陶器の出土も見られたことから写真にて掲載した。

０１Ｄ

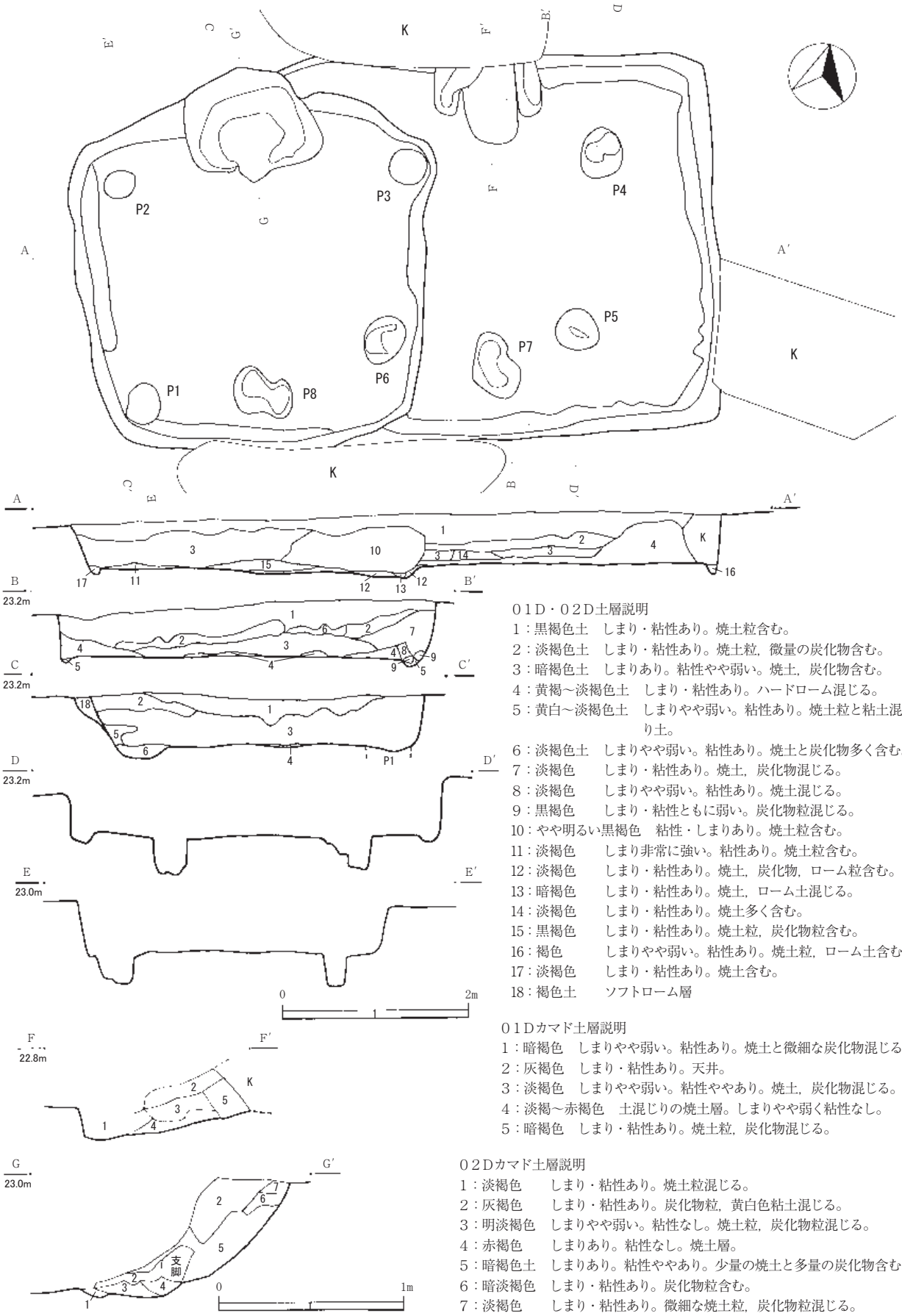
位置　調査区中央西寄り　**確認面**　ソフトローム層　**主軸方向**　Ｎ－16°－Ｗで西に振れている。　**重複関係**　０２Ｄに切られる　**規模・平面形**　4.2m×4.5m以上×0.6m　方形又は長方形　**壁**　比較的垂直に立ち上がる。　**床面**　ハードローム層を掘り込み地床としている。　**周溝**　カクランと切り合いにより北壁沿いの一部と西壁沿い部分が不明であるが，幅15cm程の溝が巡っていたと考えられる。　**カマド**　北壁中央に作られる。煙道部分は，木の根によるカクランを受けている。　**ピット**　Ｐ３～Ｐ６が主柱穴と考えられる。Ｐ３，Ｐ６については０２Ｄでも主柱穴として使用されている。南壁中央付近に小ピットを伴う土坑が検出されている。　**覆土**　11層に分類される。比較的似ている焼土混じりの土が堆積していることから，短期間に埋まった可能性がある。焼失住居の可能性もある。０２Ｄの覆土と同一土層があることから，最終的に埋められた時期は０２Ｄとほぼ同時か。　**遺物出土状態**　覆土内及び床面付近からは奈良・平安時代の土師器・須恵器が見つかっている。　**所見**　覆土や遺構の形態などから奈良・平安時代の竪穴建物跡と考えられる。

０２Ｄ

位置　調査区中央西寄り　**確認面**　ソフトローム層　**主軸方向**　Ｎ－16.5°－Ｗで西に振れている。　**重複関係**　０１Ｄを切る　**規模・平面形**　4.2m×４m×0.6m　北壁側がやや幅広でカマド部分が外に張り出すいびつな方形。　**壁**　比較的垂直に立ち上がる。　**床面**　ハードローム層まで掘り込んだ後貼床されている。　**周溝**　西壁と南壁の一部で幅15cm程の溝が巡っている。　**カマド**　北壁中央に作られる。土器片と共に大型の土製支脚が残されていた。　**ピット**　Ｐ１～Ｐ３，Ｐ６が主柱穴と考えられる。Ｐ３，Ｐ６は０１Ｄの主柱穴の再利用と考えられる。南壁中央近くに小ピットを伴う土坑が検出されている。　**覆土**　12層に分層される。堆積状況から遺構の廃絶後短期間で埋められたと考えられる。　**遺物出土状態**　覆土内及び床面付近からは奈良・平安時代の土師器・須恵器が見つかっている。　**所見**　覆土や遺構の形態などから奈良・平安時代の竪穴建物跡と考えられる。



第６図　０１Ｄ・０２Ｄ出土遺物（１）



01D・02D土層説明

1：黒褐色土　しまり・粘性あり。焼土粒含む。
2：淡褐色土　しまり・粘性あり。焼土粒，微量の炭化物含む。
3：暗褐色土　しまりあり。粘性やや弱い。焼土，炭化物含む。
4：黄褐～淡褐色土　しまり・粘性あり。ハードローム混じる。
5：黄白～淡褐色土　しまりやや弱い。粘性あり。焼土粒と粘土混じり土。
6：淡褐色土　しまりやや弱い。粘性あり。焼土と炭化物多く含む。
7：淡褐色　しまり・粘性あり。焼土，炭化物混じる。
8：淡褐色　しまりやや弱い。粘性あり。焼土混じる。
9：黒褐色　しまり・粘性ともに弱い。炭化物粒混じる。
10：やや明るい黒褐色　粘性・しまりあり。焼土粒含む。
11：淡褐色　しまり非常に強い。粘性あり。焼土粒含む。
12：淡褐色　しまり・粘性あり。焼土，炭化物，ローム粒含む。
13：暗褐色　しまり・粘性あり。焼土，ローム土混じる。
14：淡褐色　しまり・粘性あり。焼土多く含む。
15：黒褐色　しまり・粘性あり。焼土粒，炭化物粒含む。
16：褐色　しまりやや弱い。粘性あり。焼土粒，ローム土含む。
17：淡褐色　しまり・粘性あり。焼土含む。
18：褐色土　ソフトローム層

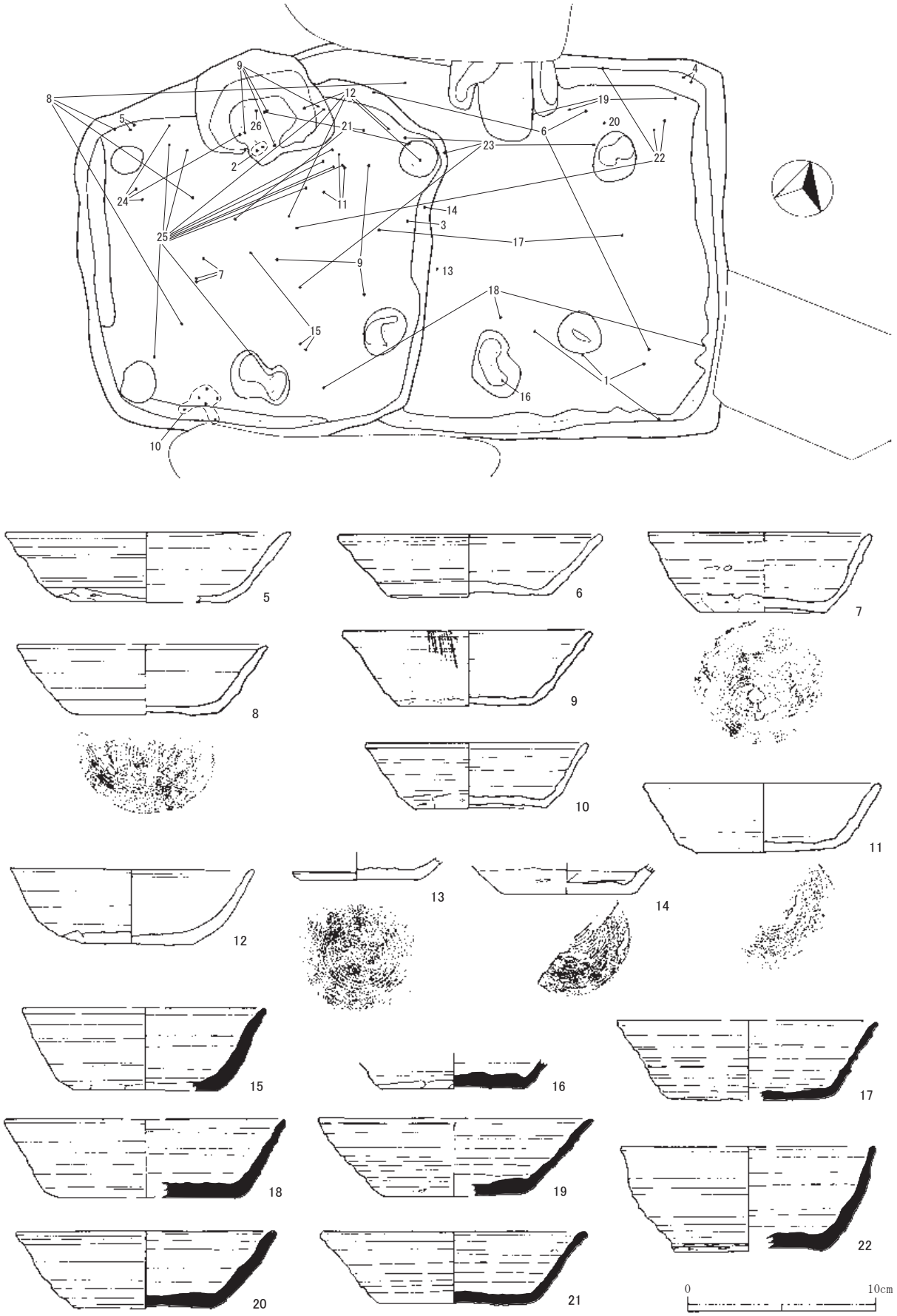
01Dカマド土層説明

1：暗褐色　しまりやや弱い。粘性あり。焼土と微細な炭化物混じる。
2：灰褐色　しまり・粘性あり。天井。
3：淡褐色　しまりやや弱い。粘性ややあり。焼土，炭化物混じる。
4：淡褐～赤褐色　土混じりの焼土層。しまりやや弱く粘性なし。
5：暗褐色　しまり・粘性あり。焼土粒，炭化物混じる。

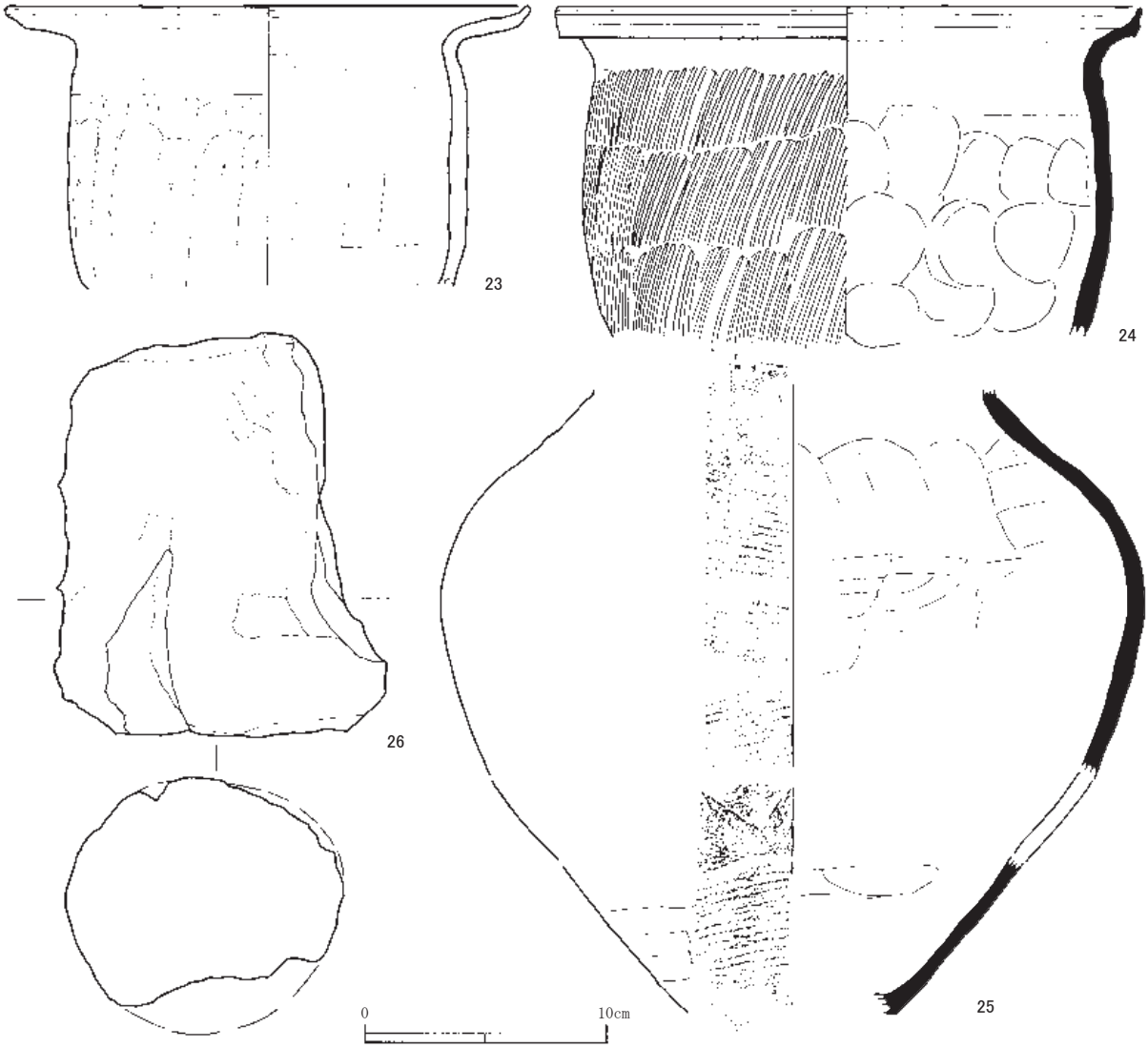
02Dカマド土層説明

1：淡褐色　しまり・粘性あり。焼土粒混じる。
2：灰褐色　しまり・粘性あり。炭化物粒，黄白色粘土混じる。
3：明淡褐色　しまりやや弱い。粘性なし。焼土粒，炭化物粒混じる。
4：赤褐色　しまりあり。粘性なし。焼土層。
5：暗褐色土　しまりあり。粘性ややあり。少量の焼土と多量の炭化物含む。
6：暗淡褐色　しまり・粘性あり。炭化物粒含む。
7：淡褐色　しまり・粘性あり。微細な焼土粒，炭化物粒混じる。

第７図　０１Ｄ・０２Ｄ遺構実測図



第８図　０１Ｄ・０２Ｄ出土遺物（２）



第９図　０１Ｄ・０２Ｄ出土遺物（３）

０１Ｄ・０２Ｄ遺物観察表（１）

	器種等	部位	計測値（cm）			色　調	胎　土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	口縁～底部	4.0	(13.0)	(8.0)	橙褐色	長石，石英	外面ヘラ削り後荒いミガキ。内面横方向のミガキ。
2	土師器 高坏	脚部	—	—	10.0	赤褐色	長石，石英 金雲母	内外面ともヨコナデ。特に内面側が被熱している。支脚として利用か。
3	須恵器 壺	底部	2.2 (残存高)	—	9.0	青灰色	長石，石英 赤色鉱物	内外面とも一部に灰釉付着。
4	鉄器 刀子		9.7 (残存長)	1.4 (残存幅)	0.4 (残存厚)			刃の基部及び茎部分は欠損。
5	土師器 坏	口縁～底部	3.8	(15.0)	(8.0)	暗淡褐色	石英 赤色鉱物 白色鉱物	外面底部ヘラ切り。体部下部ヘラ削り。
6	土師器 坏	口縁～底部	4.2	(11.8)	(6.7)	淡褐色～暗淡褐色	長石，石英 雲母	外面底部から体部下部ヘラ削り。
7	土師器 坏	口縁～底部	(4.3)	(11.8)	6.7	外面：明褐色 内面：黒褐色	長石，石英 金雲母	外面底部中央糸切り痕跡，外周部回転ヘラ削り。外面の一部と内面全体に煤付着。燈明皿か？
8	土師器 坏	口縁～底部	3.8	(13.3)	7.7	暗淡褐色	長石，石英	外面底部中央糸切り痕．外周部回転ヘラ削り。
9	土師器 坏	口縁～底部	4.0	13.2	6.8	黒褐色	長石，石英 白色鉱物	外面底部～体部下部ヘラ削り。
10	土師器 坏	口縁～底部	3.5	11.8	7.0	明褐色～黒褐色	長石，石英 白色鉱物	外面底部から体部下部ヘラ削り。
11	土師器 坏	口縁～底部	3.7	(12.4)	7.2	橙褐色	長石，石英 赤色鉱物	外面底部回転ヘラ削り，胴部下端部ヘラ削り。
12	土師器 坏	口縁～底部	4.0	(13.0)	5.5	暗淡褐色	長石，石英 雲母	外面底部ヘラ切り，体部㈱ヘラ削り。
13	土師器 坏	底部	—	—	6.4	にぶい黄橙色	長石，石英 赤色鉱物	外面底部糸切り痕。

０１Ｄ・０２Ｄ遺物観察表（２）

	器種等	部位	計測値（cm）			色　調	胎　土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
14	土師器坏	底部	—	—	(6.8)	内面：淡褐色 外面：淡橙褐色	長石，石英	外面底部中央に糸切り痕残り，外周部は回転ヘラ削り。内面：ロクロ痕
15	須恵器坏	口縁～底部	4.4	(13.0)	(7.4)	外面：暗灰色 内面：灰黄色	白色鉱物	底部外面ヘラ削り。
16	須恵器坏	底部	—	—	(7.8)	灰白色	長石，石英 雲母	外面底部ヘラ切り。体部ヘラ削り。
17	須恵器坏	口縁～底部	4.4	(14.0)	(8.5)	灰黄色	長石，石英 雲母	外面底部ヘラ削り。
18	須恵器坏	口縁～底部	4.3	(15.0)	(9.0)	青灰色	長石，石英 雲母	外面底部ヘラ削り。
19	須恵器坏	口縁～底部	4.2	(14.8)	(7.2)	青灰色	長石，石英 雲母	外面底部から体部下部ヘラ削り。
20	須恵器坏	口縁～底部	4.1	13.8	7.3	灰黄色	長石，石英 雲母	外部底部蹴ら削り。
21	須恵器坏	口縁～底部	4.0	(14.0)	8.0	灰黄色	長石，石英 雲母	外面底部ヘラ削り。
22	須恵器坏	口縁～底部	5.5	(13.5)	(7.8)	灰白色	長石，石英 雲母	外面底部から体部下部ヘラ削り。
23	土師器甕	口縁～体部	11.5 (残存高)	(21.6)	—	暗褐色	長石，石英	外面体部縦方向のヘラ削り。内面ヘラナデ。
24	須恵器甕	口縁～胴部	(24.2)	14.2 (残存高)	—	淡黄橙褐色～灰色	長石，石英 赤色鉱物	外面縦方向のタタキ。内面当て具痕あり。ヨコナデ。
25	須恵器甕	頸部～底部	26.8 (残存高)	—	(8.6)	淡橙褐色～灰白色	長石，石英	外面縦方向のタタキ，胴部㈱はヘラ削り。内面当て具痕あり。横方向のヘラナデ。
26	支脚		8.5	16.5	13.2	淡橙褐色	長石，石英 雲母	被熱により脆くなっている。胎土中に繊維の痕跡あり。

第３章　成果と課題

今回の調査により，奈良・平安時代の竪穴建物跡２棟を検出した。勝田大作遺跡の立地が河岸段丘，台地緩斜面及び平坦面上に立地し，今回の調査区は，過去に集落跡が見つかっているａ地点と同じ段丘面上であり，ａ地点で見つかっている集落跡の延長に位置するものと考えられる。まだ，調査されていない場所が多い遺跡であり，特に遺跡東側の台地平坦面については，不明な部分も多いが，少なくとも西に勝田川を臨む段丘面上には，集落が展開していくと考えられる。

参考文献

住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部，㈶千葉県文化財センター（1989年）『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書１』
住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部，㈶千葉県文化財センター（1993年）『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書２』
八千代市遺跡調査会（2004年）『千葉県八千代市　新東原遺跡ａ地点発掘調査報告書』
八千代市遺跡調査会（2007年）『千葉県八千代市　勝田大作遺跡』
八千代市教育委員会（2020年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　令和元年度』
八千代市教育委員会（2021年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　令和２年度』

図版１

調査前全景

調査区全景

０１Ｄ・０２Ｄ全景

０１Ｄ・０２Ｄ土層断面（A-A’）

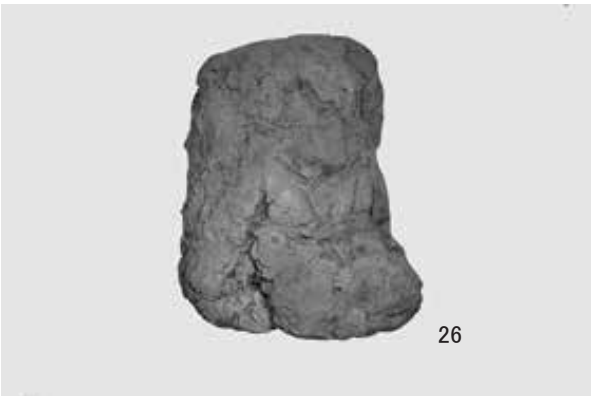
０２Ｄ全景

０１Ｄ全景

０２Ｄカマド

０１Ｄカマド

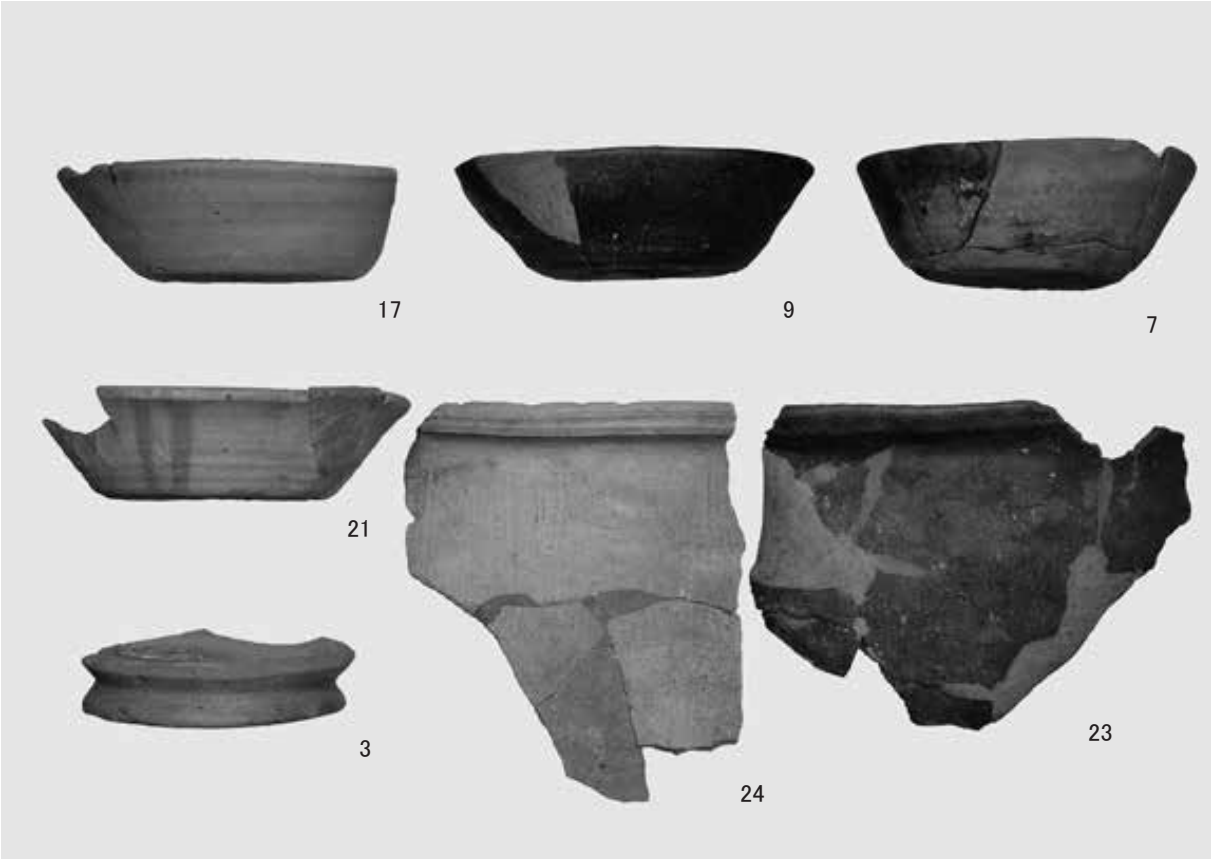
０２Ｄカマド支脚出土状況



土製支脚

刀子

灰釉・緑釉



出土土師器・須恵器

報　告　書　抄　録

ふりがな	ちばけんやちよし　かつたおおさくいせきじーちてん
書　　名	千葉県八千代市　勝田大作遺跡ｇ地点
副　書　名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	宮下聡史
編集機関	八千代市教育委員会
所　在　地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地2　TEL 047(483)1151代表
発行年月日	令和５年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かつたおおさくいせき 勝田大作遺跡	かつた 勝田637番１，640番	12221	254	35度 42分 ８秒	140度 ７分 33秒	20220421 ～ 20220520	264	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
勝田大作遺跡	集落跡	縄文，古墳，奈良・平安	奈良・平安時代竪穴建物跡２棟	奈良・平安時代土師器・須恵器，刀子	
要　　約	調査において，奈良・平安時代の竪穴建物跡２棟を検出した。過去に集落跡として調査されたａ地点と同じ段丘面上で見つかったことから，今後，同一段丘面上での集落の展開が予想される。				

千葉県八千代市　勝田大作遺跡ｇ地点

―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　日　令和５年３月31日

編　　集　八千代市教育委員会　文化・スポーツ課
〒276-0045　八千代市大和田138-2
TEL 047-481-0304

発　　行　山下興産株式会社

印　　刷　金子印刷企画
千葉県八千代市萱田410-1